

あおぞら財団 2011.4～ 年次報告書 Vol.15 2012.3



もくじ

- 2011年度事業をふりかえって…………… 1
- 重点事業
 - 15周年記念事業・公益財団認定…………… 2
 - 環境フロンティア講座・東日本大震災支援…………… 3
 - 自転車まちづくり・あおぞらイコバ…………… 4
- 各事業
 - 地域づくり(交通・住まい・まちづくり協働)…………… 5
 - 資料館(公害地域の今を伝えるスタディツアー)…………… 6
 - 環境学習(エコでつながる西淀川)…………… 7
 - 環境保健(楽しく呼吸会で呼吸リハビリテーション)…………… 8
 - 国際交流(つながろうなくそう公害)…………… 9
- 寄附・財政…………… 10
- ボランティア、インターン参加者…………… 11

2011 年度事業をふりかえって

■ 2011 年度の方針

2010 年度は、第 4 次事業計画のスタート年として、第 3 次事業計画での調査・研究の蓄積、地域とのつながり、実践の経験、研究者、専門家らとのネットワーク等をフルに活用して、各分野での取り組みを一層発展させることが求められている。「将来構想検討委員会」で検討を行った重点事業のうち、すでに環境フロンティア講座の開講には着手しているが、それ以外の重点事業に関しても積極的に着手していく。

個別事業としては、「地域づくり」として参加型交通まちづくりの取り組み、自転車を活かしたまちづくり、「資料館活動」として公害地域のいまを訪ねるスタディーツアーの取り組み、「環境学習」として西淀川 ESD ネットワークの継続と菜の花プロジェクトの推進、「環境保健」として、公害患者らの呼吸リハビリの普及と未認定患者らの救済問題への取り組みなどを中心に進めていく。中国を中心とした公害経験を伝える国際交流活動、さらに、「将来構想検討委員会」の検討結果を踏まえて実施している環境フロンティア講座の開催などの重点事業を一層充実させていく。

こうした事業や取り組みを推進するために、研究者ネットワークづくり、財団を物心両面から支えるサポーター（賛助会員）の拡大、「ボランティアの日」をはじめ事業活動に協働して取り組むボランティア制度とアルバイト・スタッフ制度の強化、インターン生の積極的な受け入れ、寄付金集めの強化等を進め、引き続き市民・住民とともに歩む自立した財団をめざしていく。



子どもエコクラブでよどがわ親子ハゼつり大会 (2011.10.8)

■ 2011 年度の総括

2011 年 3 月 11 日の東日本大震災と福島第 1 原発の過酷事故は、わが国に大きな衝撃を与えた。とりわけ、原発事故は、福島県を中心に広範囲かつ高濃度の放射能汚染を発生させ、それが今後も長期に亘って続くことが明らかであり、最悪・最大の公害と言わねばならない。

あおぞら財団も、これにどう向き合い、復興支援や今後の原発問題・エネルギー問題にどう取り組んでいくかが問われた。



大避町で移動おフロのお手伝い (2011.4.18)

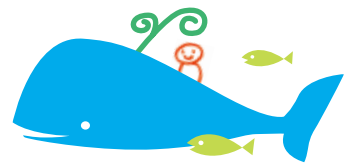
財団は、震災直後に、所員を被災地（岩手県等）に派遣して被害状況を把握するとともに、現地で被災者や NPO から被災者の輸送手段の確保が緊急に必要であるという要望を聞き、いち早く被災者を送迎する車を現地に届け、現在も有効に活用されている。また、原発・エネルギー問題では、原発事故の内容、深刻さとともに、今後のエネルギー政策の在り方を考える連続講座「環境フロンティア講座」を開催した。



遠野まごころネットの会合にて、遠野山里暮らしネットワークの菊池新一さんと車について相談 (2011.4.19)

しかし、こうした取り組みはまだ緒についたばかりであり、大震災と原発事故をどう地域再生、まちづくりに生かしていくか、具体的には、環境、防災、福祉をキーワードとしたまちづくりと、地域において太陽光発電などの再生可能エネルギーの普及をどう進めていくかが今後の課題となっている。

(理事長 村松昭夫)



■あおぞら財団 15 周年 記念事業

1995年3月、大阪・西淀川大気汚染裁判において被告企業9社との間で和解が成立し、両者が西淀川地域の再生のために努力しあうことを確認しました。そして、和解金の一部を基金に、あおぞら財団が設立されました。(1996年9月：環境庁許可、2011年7月：公益財団法人へ移行認定)

あおぞら財団設立から15周年を記念し、2011年12月4日(日)、西淀川公害患者と家族の会設立40周年、あおぞら苑設立5周年とともに、記念のついで「手渡したいのは青い空」をホテル阪神にて開催しました。

当日は、244名の方に参加いただきました。公害防止運動に関わった方々、あおぞら財団にボランティアとして参加された方々、あおぞら苑でご縁ができた方々、全国の公害防止や環境再生に取り組んでいる方々、全国の研究者、中国から来訪中の環境NGOのメンバーなどなど各方面より多数のご来客がありました。

第一部では、40年にわたる公害防止と環境再生へのと

りくみのあゆみを紹介いたしました。特別講演として、日本における公害研究の第一人者である宮本憲一氏(大阪市立大学名誉教授、元滋賀大学学長)による日本における100年の公害史の中での、西淀川公害および反対運動の意義についてお話し頂きました。

第二部のレセプション会場では、20年前に開催した「共感ひろば」に参加し、「手渡したいのは青い空」を歌ってくれた当時の学童保育のメンバーが駆けつけてギターで演奏いただく中、全員で合唱しました。

今回、これまでの軌跡を振り返る記念写真集「公害と闘い環境再生の夢を」を出版・配布しました。会場では、40年のあゆみの中で、亡くなられた公害患者の方々のご冥福を祈り黙祷を捧げ、青い空を次世代に手渡す環境再生への誓いを新たにしました。(藤江徹)

全員で「手渡したいのは青い空」を合唱



■公益財団法人認定 「公益」と付きました

「公益財団法人公害地域再生センター」…2011年7月からのあおぞら財団の正式名称です。名前の中に「公益」と「公害」の両方が入っている。つまり「公害地域をよくすることは、公の利益」ということですよね。気が引き締まります。

さて、もともとは環境省所管の財団法人でした。制度の改革で、2015年までに「一般財団法人」か「公益財団法人」のどちらかに移行しなければならなくなりました。そこで、より高い公益性が求められ、法人税や寄附者に対する優遇措置のある「公益財団法人」を選択することにしました。

周りの人たちに助けられながら、申請作業をおこない、無事、内閣府から「公益」の認定を得ることができました。あおぞら財団への寄附金には税金の優遇措置があるなど、「公益」が付いたことで、前とは違うところがあります。その一方で、市民活動から生まれた環境NPOとして、住民の立場から活動をつづけていくことは変わりません。どうぞ今後ともよろしく願いいたします。(鎗山善理子)



認定書



あおぞらビル1階の壁面緑化



■東日本大震災 被災地支援

2011年3月11日に発生した東日本大震災は福島の原因事故や、巨大な津波によって、多くの被害をもたらしました。当財団でも、被災地支援を重点事業と位置づけ、刻一刻と変化している被災地の状況に応じた支援を行ってきました。

震災直後は、被災地で不足している物資を募り、衣料品や生活必需品、自転車部品など送付しました（3回）。また、被災地から大阪市西淀川区へ避難してこられた方々に、自転車3台や衣料品などを提供しました。

続いて、2011年4月に、岩手県を訪問し、現地で支援活動続けるNPOに被害状況や必要な支援について話を伺い、「ボランティアや被災者を送迎するための車両が至急必要」との要請を受け、廃天ぷら油でも走行可能なワゴン車1台（あおぞら号）を「NPO法人 遠野山・里・暮らしネット」へ提供しました。同資金確保のため、活動支援金（100万円）を募る活動も行っています。

継続的に取り組むため、報告会の開催（4月22日）や9月より当財団の機関誌「りべら」にコーナーを設け、遠



あおぞら号は今日も現地で被災地やボランティアの足となって活躍しています

野山・里・暮らしネットに寄稿いただき、現地の様子を知らせていただきました。

2012年1月からは、被災者の仕事づくりのために始まった事業「EAST LOOP」（被災者がハートブローチを手作りし、売上の一部が被災者の収入になる）への販売協力を行ってきました。

今後も引き続き、被災地を支援する活動を続けていく予定です。

支援物資や寄付を提供していただきました皆さまに改めて御礼申し上げると共に、被災者の皆さまの一日も早い生活再建をお祈り申し上げます。（藤江徹）

■環境フロンティア講座

～みんなで環境について学びを深める～

地球温暖化をはじめとする環境問題についての関心が高まる中、あおぞら財団では、改めて公害・環境問題について学び、考え、展望を広げる場として環境フロンティア講座を2010年度までに3期開講してきました。

2011年7月に開講した第4期は『東日本大震災一原発事故とこれからのエネルギー問題』をテーマに、福島原発事故を受け、原子力政策はどう変わるのか？これからのエネルギー政策の実践例などについて、専門家の講義・参加者同士の意見交換を通じて学ぶ機会としました。参加者はのべ116人でした。

原発や再生可能エネルギーについて、4つのテーマで講師の人にそれぞれ話をしてもらいました。（右表）私たちのエネルギー政策に関する知識や意識の薄さを痛感させられる内容であり、市民自らがエネルギー政策に関する見直すことにおいて、非常に有意義なものでした。

（相澤翔平）

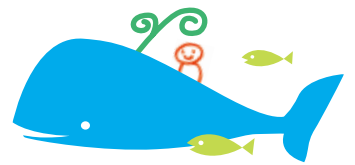


『環境フロンティア講座』
原発について講師と意見交換を交えながら学びました

第4期「東日本大震災一原発事故とこれからのエネルギー問題」

	テーマ	講師
第1回	福島原発事故：原子力政策はどのように変わるのか？	速水二郎氏
第2回	原発事故からみた技術利用の安全問題	西川榮一氏
第3回	エネルギー政策はこれからどうなるのか、その選択肢は？	大島堅一氏
第4回	実践事例から学ぶ、再生可能エネルギーの普及	和田武氏

（のべ参加人数 116人）



■自転車まちづくり

～市民による自転車まちづくりの発展～

歩行者も自転車も安心して通行できる環境づくりを、自転車ユーザーの市民の側から求めるために始まった「御堂筋サイクルピクニック」。

御堂筋に自転車レーンを作って欲しい！とアピールするのが目的ですが、それだけでなく、自転車が本来走るべき「車道」を走行することを通じて、自転車マナーの啓発もアピールする新しい取り組みです。2011年10月22日に、あおぞら財団が事務局をしている自転車文化タウンづくりの会主催で開催し、御堂筋を100人でアピール走行を行いました。

この他にも大阪自転車通勤ルートマップづくりや、目の見えない人でも乗れるタンデム自転車の普及など、2011年度は自転車を利用しやすい環境づくりのために市民主体の活動が発展した1年だったと思います。多くの方に協力いただき、新たなつながりもたくさん生まれました。そのつながりを太くしながら、今後も自転車まちづくりを進めていきます。(相澤翔平)



御堂筋サイクルピクニックの様子



タンデム自転車で緑陰道路を走ります

御堂筋サイクルピクニック HP

<http://cycleweb.jp/cyclepicnic/>

自転車文化タウンづくりの会 HP (事務局：あおぞら財団)

http://sky.geocities.jp/cycletown_osaka/

■人のぬくもりのあるスペースに「あおぞらイコバ」

「八百屋やったらええんちゃうん」、「ジャズコンサートやったら、どう？」・・・ボランティアさんたちが、こんな話をしながら、セルフビルドであおぞらビルの1階に地域交流スペースをつくったのが2010年12月。誰でも利用できる貸しスペースです。みんなが憩う場ということで「あおぞらイコバ」と名づけました。

地元の人やカフェのメンバーにお手伝いいただき、ホントに野菜市やジャズコンサートをやるようになり、この1年で、写真展や手染め展、一箱古本市、もちつき大会、うどんづくり、などでも利用してもらえるようになってきました。さらに、外側は緑で包まれるように、壁面緑化に挑戦中です。

そこに誰かがいると、また、誰かが来て、会話がうまれる。(・・・だけど、誰もいないときもまだ、結構あります。)人がいる、人のぬくもりのあるスペースにしていけるよう、これからもご協力をよろしくお願いいたします。

<http://aozora.or.jp/ikoba>

(鎗山善理子)

ジャズコンサート



会議やワークショップに使えます



案内は黒板でお知らせしています





交通・住まい・まちづくり協働

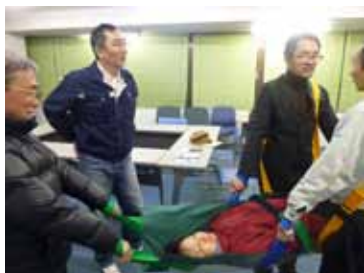
■ 2011 年度の重点目標

- ① 西淀川地域における参加型交通まちづくりの推進
- ② 自転車を活かしたまちづくりの推進
(重点事業にて報告)
- ③ 西淀川地域における住まいと暮らしの見つめ直し

■ 成果と課題

① 西淀川地域における参加型交通まちづくりの推進

2009 年度に実施した交通まちづくり意見交換会を継続し、西淀川交通まちづくりプロジェクト～「災害によいまちづくり・移動のしやすいまちづくり」を実施。昨年からのメンバーを中心に、各所ヒアリングを行い、11 月・12 月・2 月・3 月に会議を開催し、2 月 11 日に防災まちづくり講演会（講師：越山健治氏：関西大学 准教授）を開催（※財団法人大阪ガスグループ福祉財団助成金）。結果をとりまとめ、防災まちづくり通信 vol.1、西淀川お出かけマップ（御幣島駅周辺）として発行（2012 年 3 月）。



救助担架フレストを使っている様子

② 持続可能な社会づくりのための協働イノベーションに関する調査・研究

大阪大学大学院法学研究科大久保規子教授等が中心となって進めている「持続可能な社会づくりのための協働イノベーション～日本におけるオーフス 3 原則の実現：グリーンアクセスプロジェクト」に関する研究に協力。2011 年度は、道路検討会・西淀川地域再生研究会での検討をもとに、全国約 1600 自治体への実態調査、HP 作成、研究会の開催などを行ない、協働の仕組みづくりに取り組んだ。

★ 事業にひとこと

オーフス条約は、さまざまな NGO が参加して策定されました。海外では、リオ+20 に向け、この条約を広め環境民主主義を強化しようという動きが活発化しています。日本からも賛同のメッセージを送りませんか。

(大阪大学大学院法学研究科教授大久保規子さん)



③ 西淀川地域における住まいと暮らしの見つめ直し

西淀川から住まいと暮らしを考える環境住宅研究会の立ち上げ、ワーキングメンバーを中心に、まち歩き調査 & 講演会 & 提案づくりを行ない、環境住宅に関する知見をとりまとめた（Green Housing 展示会 3/16～22、報告会 3/17）。今後は、新たに参加・協力者を募りながら、西淀川区区内での環境に配慮した住宅づくりにつながる活動を進めていく予定です。

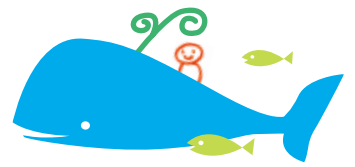
★ 事業にひとこと

あおぞらイコバのデザインを機会にこの街の歩んできた歴史や街の事業を知ることになりました。公害との闘いの歴史もさることながら、庶民的でありながら豊かな街の表情に驚かされています。あおぞらイコバの壁面緑化の「つた植物」のように、うまくネットワークすることで大きな課題解決にむかい、緑のネットワークを組織するように住宅づくりを考えられたらと思います。

(CASE / まちづくり研究所・松富謙一さん)

■ その他の取り組み

- 第 15 回西淀川道路連絡会が 12 月 13 日に開催され、提案づくり（大型車対策、歩行者・自転車にやさしい沿道対策・交通環境対策を、PM2.5 の環境基準の早期達成に向けた対策、歌島橋交差点改良工事に関する要望）をサポート。
- 大阪府トラック協会、池田市と共催で「サイクル & エコカーニバル 2011 in 池田」開催（11 月 6 日）。
- 徳島市環境リーダー推進事業（徳島市）において、環境講座「ぶらりエコカフェ～徳島の環境を感じてみよう～全 6 回」や報告・交流会の開催などの企画・運営をサポート。
- 東大阪市地域まちづくり活動助成金審査会の委員（藤江）として参加。
- 西淀川区河川等環境保全会議に委員（藤江）として参加。
(藤江徹)



公害地域の今を伝えるスタディツアー

■ 2011 年度の西淀川・公害と環境資料館

資料館の利用者が増えてほしい、そして、公害教育を広げるために、公害を知らない若い人たちと公害の現地を訪ねて学ぶ取り組みを、2009 年度から 3 カ年にかけて行ってきました（地球環境基金助成事業）。2009 年は富山・イタイタイ病、2010 年は新潟・水俣病、2011 年はあおぞら財団の本拠内、大阪西淀川・大気汚染の地を訪問し、多くの人からヒアリングし、現地への提案を行いました。

■ 成果と課題

- 公害を学ぶ意義が明らかになった。
- あおぞら財団のファンが増えた。
- 被告企業との関係性をつなぎ直すことができた。
- ウェブと報告書、パンフレットを作ることができたが、本を出版するなどの社会へのインパクトがまだ必要である。

★ 事業にひとこと

高木勲寛さんからは「スタディツアーが風化防止になり、行政がイタイタイ病について再認識するきっかけになった」、塚田真弘さんからは「受け入れには不安があったが、結果的にやってよかった」という感想をもらいました。また参加者代表の手登根さんは「公害は決して終わった話ではないと痛感し、将来教師になって今の子どもたちにスタディツアーを通して学んだ公害の今を伝えていきたい」と話しました。



「公害地域の今からはじめようシンポジウム～富山イタイタイ病・新潟水俣病・大阪西淀川大気汚染のスタディツアーを通じて～」
12月3日・大阪ドーンセンターにて

■ 西淀川の公害スタディツアー



関西電力堺太陽光発電所を見学

公害地域の今を伝えるスタディツアー～大阪西淀川・大気汚染の地を訪ねて～を 2011 年 8 月 8 日～11 日に実施しました。参加者が 50 名という大人数での開催となりました。

ヒアリングの対象は、被害者や公害病患者、運動の支援者、公害訴訟を担当した弁護士は勿論ですが、公害を規制する立場の行政や、公害を伝えるジャーナリストや教員、原因となった企業にも話を聞きました。今回は、和解解決後に希薄となっていた原因企業との関係性をつなぎ直す機会となり、関西電力と古河ケミカルズにヒアリングに応じてもらうことができました。

様々な立場の話聞く事で、公害の解決には様々な努力があって成り立っている事、現在も解決されずに残されている課題があることが浮かび上がってきます。参加者は社会の課題を知ることで「自分は何ができるか」を真剣に考え、顔つきが変わってきました。

3 カ年行ってきたスタディツアーの様子はウェブサイトにて公開しています。

<http://www.studytour.jp.org/>

■ その他の取り組み

- 四日市と倉敷の公害裁判資料の整理
(環境再生保全機構事業)
- 西淀川の公害資料整理
- 研修受け入れ など

(林美帆)



エコでつながる西淀川 ～広がる廃油回収の輪～

■ 2011年度の『廃食油回収』

2009年、西淀川高校のよびかけで始まった西淀川の廃油回収。最初は4箇所の回収拠点ではじまりましたが、2011年度、回収拠点は50箇所になりました。1年の回収量は、3,986ℓでした。特に、佃連合振興町会の廃油回収は1539ℓ（月平均128ℓ）で、佃連合振興町会の廃油算出量から計算した回収率は10%を超えました。また、2010、11年度はトヨタ財団の助成をうけて活動しています。

廃油回収の普及のため、西淀川オリジナルの廃油リサイクルハンドソープをつくることになり、ラベルのデザインを佃中学校の生徒に募集しました。3年生121名の作品の中から審査の結果、布施茜音さんの作品が最優秀賞を選ばれました。西淀川オリジナルエコハンドソープは西淀川区役所にも贈呈し、区内の公共施設等で使われています。



12月22日夜、『キャンドルがナイと！ in NY』を開催、廃油をリサイクルしてつくったキャンドルで大野川緑陰道路を彩りました。2011年の廃油キャンドルナイトは大学生が主体の学生実行委員会が企画し、準備を進めてきました。西淀川高校の生徒や小学生、地域の大人達等、当日は40名のボランティアが参加。ギター演奏やオーガニックカフェの出展などで会場は和やかに盛り上がりました。2012年度も開催します。



■ 成果と課題

- 大学生がイベントを運営したり中学生がリサイクルハンドソープのラベルを考案するなど、様々な年代の活動参加の場ができました。
- 佃連合振興町会や出来島商店会、西淀川薬剤師会などの団体が参加をすることで回収拠点が一気に増えました。他の町会や団体にも呼び掛け、回収拠点を増やしていくことが課題です。
- 回収拠点は一定数できたので、回収率を上げることが課題です。

★ 事業にひとこと

たかが10%というなかれ。佃という限られた地区であっても、廃油全体の10%超を回収できたということは一つのステップとしてとても意義のあることだと思います。

助成担当者として先日あおぞら財団さんを訪問させていただいた際、事務所の中だけでなく、自転車で実際に廃油回収の現場をもご案内いただきました。環境のためだからとむやみに肩肘を張るのではなく、地元の住民の方々とともに和気藹々と楽しみながら活動をされている姿がとても印象的でした。今後ますますの発展を祈念しています。

(トヨタ財団プログラムオフィサー 楠田健太さん)

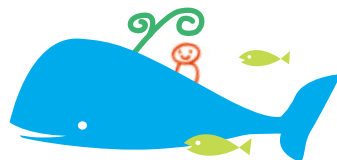


トヨタ財団の楠田さん（右）と佃連合振興町会、津田町会長（左）

■ その他の取り組み

- ① 子供たちと取り組む地域環境調査（セミ調べ等）
- ② 愛知目標達成に向けた100の提案づくりワークショップ開催（12/10-11土、参加者35名）
大阪市内で開催。環境再生保全機構からの委託事業です。
- ③ フードマイレージ教材の貸出、講師派遣
根強い人気のフードマイレージ教材。2011年は46団体に貸出し、3068人がゲームを体験しました。

（小平智子）



楽しく呼吸会で呼吸リハビリテーション

■ 2011 年度の環境保健

2003年に全国の公害患者のアンケート調査を行いました。「息苦しい」という患者の声が多数寄せられたことから、あおぞら財団では呼吸リハビリテーションを普及させようと模索してきました。

■ 成果と課題

- 呼吸リハビリテーションを経験してもらったことで、呼吸リハビリの有効性を実感してもらえた。
- 定着させるためには、一層の医療機関との連携が必要となる。

★ 事業にひとこと

2か月に1回、集まって勉強することで、知ったことがたくさんありました。長い間、患者をしているけれど、病気のことを知らなかったんだなぁと思いました。遠足に行ったりするのも楽しかったです。患者は呼吸が苦しくてどうしても家から出なくなってしまうがちだけれど、たまに外に出ることは大切だし、運動することが治療になることが分かったけれど、多くの人は外に出ることをためらってしまいます。一線を越えればいいのだけれど、そこが難しいです。

(西淀川公害患者と家族の会 永野千代子さん)



■ 楽しく呼吸会



すわってできる運動をしています

呼吸器疾患の患者さんは、肺機能が低下しており、肺機能を補うために、肩に力が入ってしまいます。つまり、筋肉で呼吸を補っているわけです。この筋肉を鍛えることで呼吸が楽になります。

2010年から西淀川で呼吸リハビリテーションの輪を広げるために、千北診療所と姫島診療所で楽しく呼吸会を2か月に1回ほど開催しています。公害患者さんだけでなく、呼吸器疾患の患者さんが集まって、呼吸リハビリテーションの体験をしたり、栄養の勉強をしたり、遠足に行ったりしています。遠足に行く前は、「今日は雨が降りそうだからしんどい。歩けない。」なんて言っていたのですが、海岸をみんなで歩いていると楽しくなって、帰りは笑顔なんてこともありました。

1人で呼吸リハビリを実践するのは大変でも、みんなで悩みを共有して、笑いながら一緒にやってみるとできることも多いです。これからも、細々と続けていきたいと思っています。



矢倉海岸への遠足

■ その他の取り組み

医療従事者への呼吸リハビリテーション研修 など

(林美帆)



つながろう なくそう公害 ～日中環境 NGO 交流 2011～

■ 2011 年度の目標

アジアを中心とした環境NGO等との活動交流

- 中国環境NGOと協働し、日中両国の環境改善につながる協働事業の立ち上げを行なう。

■ 成果と課題

- 2011年度には、北京を訪問（10/24～27）し、中国の環境NGO（自然之友、達爾問自然求知社）を訪問し、中国国内での重金属問題への対応やGCA※1活動等について伺いました。また環境NGO護国使者の張峻峰氏に案内頂き、汚染河川・北小河の視察を行なった。
- 中国の環境NGOメンバー（9名）を迎えて、日中公害・環境問題に関する研修プログラムを実施（2011年12/1木～12/5月）することができたことが大きな成果であった。
- さらに、日中環境問題サロン2012「日中協働によるサプライチェーンのグリーン化をめざして～中国環境NGOネットワーク“Green Choice Alliance（GCA※1）活動報告～」を開催し（3月14日）、企業も含む協働のあり方を模索しました。前日（3/13）には、中国のGCAメンバーである李力氏とともに、パナソニックを訪問し、中国国内におけるサプライチェーンのグリーン化に向けて協議した。
- 今後は、新たに構築されたネットワークをさらに広げる取り組み、協働の仕組みづくりなどに取り組んでいきます。

★ 事業にひとこと

去年、日本の大阪での研修は大変勉強になりました。あおぞら財団を訪ねて、とても楽しかったです。皆様のおかげで、うまく交流でき、大変お世話になりました。ありがとうございました。

日本の環境整備の経験は、中国にとって大変勉強になると思います。なぜなら、現在中国の環境問題・環境汚染は昔より、更に深刻になりました。環境を専門とする学者も、その問題の深刻さに気づくようになりました。

私は、環境問題に関心を持っている弁護士として、村松昭夫さんをはじめとする弁護士さんたちの経験を更に習得したいと考えるようになりました。チャンスがあるなら、また日本へ勉強と交流に行きたいです。

（研修プログラムに参加した弁護士 曾祥斌さん）



国務省から裁判和解後の43号線の大气汚染対策を聞く



中国環境NGOとの交流（北京：自然之友）

■ その他の取り組み

<翻訳資料>

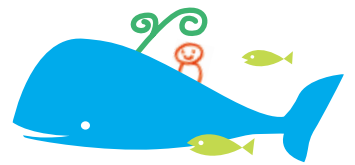
- 公害地域の今を伝えるスタディツアー～2009 2010 2011～
- 「公益訴訟が環境法治を推進する」曾祥斌（日本語訳：山本節子）

<交流事業・研修受け入れ>

- 京都大学「SD人材育成事業」の西淀川での研修受け入れ（2011年11/11、参加者18人）
- 台湾で行われた第10回アジア太平洋NGO環境会議（APNEC10）に参加（11/19～21）。
- 交流を続けてきた中国環境NGO・環友科学技術研究中心（代表：李力氏）が中国で廃油リサイクルプロジェクトをスタート（在中国の日本大使館の草の根ODAを活用）。（藤江徹）

※1 Green Choice Alliance(GCA)

GCAは、自然の友、公衆環境研究センター（IPE）、達爾問自然求知社、環友科学技術センター、南京緑石の5団体を中心とした中国の41の環境NGOによる緩やかなネットワーク運動。2008年に結成され、サプライチェーンにおける環境管理の促進を目指し、汚染企業と交渉している。



2011 年度寄附・寄贈者 (敬称略、順不同)

財政状況 (2011 年 4 月 1 日～2012 年 3 月 31 日)

浅井真二	是枝洋	宮崎悦子	森川賢
新井真	佐賀朝	宮本憲一	深見正仁
井奥圭介	酒井健一	宮本由貴	清水万由子
石井琢也	鷺坂長美	村松昭夫	西口勲
伊藤卓次	澤井余志郎	森山正和	川合千代子
植田和弘	塩貝隆夫	山崎圭一	大久保規子
上田幹枝	清水万由子	吉村良一	長瀬文雄
遠地昭典	庄谷邦幸	栗屋かよ子	島田克彦
遠藤宏一	芹沢芳郎	安本史恵	南慎二郎
逢坂隆子	津留崎直美	雨宮洋美	柏原誠
大橋孝子	長野義春	吉田長裕	尾崎寛直
奥村昌裕	西川日奈子	高木勲寛	友澤悠季
柏原純夫	西口勲	佐々木正顕	林公則
片岡直樹	西宮洋	山本元	藤江誠
金谷邦夫	西村弘	小磯明	藤江めぐみ
川崎美栄子	早川光俊	小田康徳	佐藤努
北泊謙太郎	林久和	松岡弘之	山根佳恵
木野達夫	檜谷美恵子	松岡資明	沢勲
蔵本幸治	福本富男	松村暢彦	進士五十八
功刀恵美子	牧洋子	松田毅	
小林俊康	松村暢彦	新田保次	

北九州公害患者と家族の会
 神戸製鋼所
 自然環境会議八尾
 新婦人の会東住吉支部
 中津リバーサイド・コーポ
 西淀川公害患者と家族の会
 日本科学者会議大阪支部
 水俣協立病院
 山崎シャーリング
 社会教育推進全国協議会
 吉田運送
 神通川流域カドミウム被害団体連絡協議会
 水島地域環境再生財団
 大阪市立淀商業高等学校
 大阪府
 大阪府立今宮高等学校
 中国環境問題研究会
 尼崎道路公害訴訟弁護団
 立命館大学大学院政策科学研究科
 立命館大学大学院政策科学研究科・公務研究科

収入		支出	
資産運用益	557,089	事業費	34,811,933
会費	1,269,000	管理費	19,664,758
受託金等	27,514,500	積立金取得支出	1,187,940
寄付金	1,623,080		
雑収入	3,243,794		
積立金取崩収入	18,320,000		
合計	52,527,463	合計	55,664,631
		当期収支差額	△3,137,168

役員等／職員 (50 音順、敬称略)

この項は 2012 年 7 月 1 日現在のものです。

理事長 村松昭夫 (弁護士、全国公害弁護団連絡会議幹事長)

理事 植田和弘 (京都大学大学院経済学研究科教授)
 金谷邦夫 (内科医、生活協同組合ヘルスコープおおさか理事長)
 高田研 (都留文科大学文学部社会学科教授)
 長瀬文雄 (全日本民主医療機関連合会事務局長)
 新田保次 (鈴鹿工業高等専門学校校長、大阪大学名誉教授)
 藤江徹 (公益財団法人水島地域再生センター事務局長・研究員)
 森脇君雄 (全国公害被害者総行動実行委員会代表委員、西淀川公害患者と家族の会会長)

山崎光信 (株式会社山崎シャーリング会長)

監事 津留崎直美 (弁護士)
 山崎義郷 (原水爆禁止大阪府協議会副理事長)

評議員 飯田秀男 (全大阪消費者団体連絡会事務局長)
 太田映知 (財団法人水島地域環境再生財団専務理事)
 神吉紀世子 (京都大学工学研究科教授)
 辰巳致 (NPO 法人西淀川福祉・健康ネットワーク理事長、デイスサービスセンターあおぞら苑施設長)
 中島晃 (弁護士、龍谷大学法科大学院客員教授)
 永野千代子 (西淀川公害患者と家族の会事務局長)
 西村弘 (関西大学社会安全学部教授、大阪市立大学名誉教授)
 早川光俊 (弁護士、NPO 法人地球環境と大気汚染を考える全国市民会議専務理事)
 松本嘉子 (財団法人淀川勤労者厚生協会常務理事)
 和久利正子 (大阪公害患者の会連合会事務局長)

顧問 アグネスチャン (歌手、教育学博士)
 進士五十八 (東京農業大学名誉教授、前東京農業大学長、日本学術会議会員)
 宮本憲一 (大阪市立大学名誉教授、元滋賀大学学長)
 森島昭夫 (特定非営利活動法人日本気候政策センター理事長、(財)地球環境戦略機関特別研究顧問、中央環境審議会臨時委員、名古屋大学名誉教授)

事務局 相澤翔平 (研究員)
 小平智子 (研究員)
 林美帆 (研究員)
 藤江徹 (事務局長・研究員、理事)
 鎗山善理子 (会計・研究員)
 上田敏幸 (特別研究員)
 谷内久美子 (特別研究員)
 南聡一郎 (特別研究員)

ありがとうございます

11年度お助けボランティア参加者（敬称略）

浅井真二	小坂茂樹	藤川航太郎
天谷純	小寺伸幸	眞鍋麻衣子
家入大樹	貞方雅則	水島仁美
石原敬介	佐成志朗	村田真琴
井上正太郎	笑福亭仁勇	森本太
井本晶子	曾我翔磨	山野純平
大野みさ子	谷大輔	山本元
岡崎久女	辻野隆雄	
蒲原ヨシ子	西村友希	
小岩智哉	野中昶明	

11年度インターン参加者（敬称略）

天谷純	近畿大学経営学部経営学科3回生
荒木萌	成安造形大学デザイン学部 イラストレーション学科3回生
井本品子	京都精華大学人文学部総合人文学科3回生
内田朋大	近畿大学経営学部経営学科3回生
榎田健二	近畿大学理工学部応用化学科3回生
鐘江元気	近畿大学経営学部経営学科3回生
小寺伸幸	近畿大学経営学部経営学科3回生
古味那津実	京都女子大学現代社会学部現代社会学科2回生
坂根慎哉	近畿大学経営学部経営学科3回生
土取弘幸	近畿大学経営学部経営学科3回生
西田貴裕	近畿大学経営学部経営学科3回生
野口岳	大阪経済大学経済学部地域政策学科3回生
野中昶明	近畿大学経営学部経営学科3回生
林田友理恵	京都学園大学バイオ環境学部 バイオ環境デザイン学科3回生
松本彩也香	大阪経済大学経済学部経済学科3回生
水島仁美	大阪経済大学経営情報学部 ビジネス情報学科3回生

●あおぞら財団「ボランティアの日」

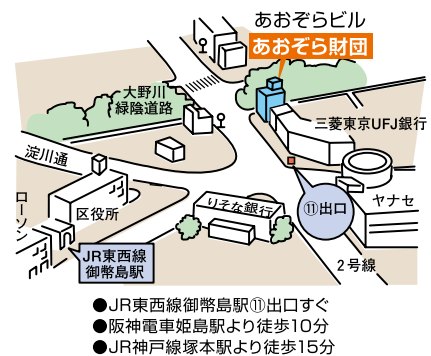
毎月第一金曜日9:30～17:30(応相談)
 (随時ボランティアは受け付けているので興味のある方は
 ご連絡ください)
 毎号のリペラ発送作業は、ボランティアさんとしています。



お助けボランティアの参加者は28人、述べ人数は56人です。中、高、大学の学生、シニア層の人など、所属も様々です。インターンは、16人が参加しました。財団はじまって以来、一番多い参加数です。実習終了後もボランティアやアルバイトとして財団で活躍する学生もいます。

あおぞら財団とは

1960年代から問題となった大気汚染公害によって、多くの人が健康被害を受けました。その責任を問う西淀川公害裁判(1978～1998)では公害患者が勝利しました。患者は「手渡したいのは青い空」を願い、裁判の和解金の一部を使って1996年にまちづくり組織・あおぞら財団を立ち上げました。まちづくり・資料館・環境学習・公害患者の保健・国際交流の事業を行い、持続可能な地域づくりに取り組んでいます。



〒555-0013 大阪市西淀川区千舟 1-1-1 あおぞらビル 4階

TEL: 06-6475-8885

URL: <http://www.aozora.or.jp>

E-Mail: webmaster@aozora.or.jp

編集者 松本 久里奈 (2012年度インターン)

